



佐藤 公紀 さん(35)
彩 さん(29)
＝水沢区西上野町＝

雨の日も晴れの日も

●どんなときも一緒に素敵な夫婦を紹介

市まちなか交流館内にあるレストラン「ナヴォーナ」。おいしいパスタで知られるこのお店は、3月に挙式を控えた新婚夫婦が営んでいます。夫の公紀さんは料理人。以前は水沢区内の別の料理店で働いていました。その店舗の2階にある美容サロンへ、彩さんが研修に来たのが2人の出会いでした。「面白い人だと思いました」と、公紀さんの第一印象を語る彩さん。研

修が終了した後も、矢巾町の自宅から毎日のように公紀さんのいる店へと通いました。もともと自分の店を持ちたいと思っていた公紀さんが、市まちなか交流館で店を出すときに「一緒にやろう」と彩さんを誘い、それを機に2人の生活はスタートしました。「ナヴォーナ」という店名は、イタリアのローマにあるナヴォーナ広場から。いつも人でにぎわいながらも、くつろげる場所にしたいという思いから名付けました。「いつか、2人の集大成となる独立したお店を持てたら——」と夢を語る公紀さん。「妻がやる気にさせるパワーをくれるんです」と、自慢げに笑いました。「ナヴォーナ」は、2人の夢への第一歩。「見捨てないで、ずっとそばにいて」と言う公紀さんに、彩さんは「やんた」と笑って冗談めかしながらも、「体を大切にしてくね」と優しくほほえみ掛けていました。



千葉 大介 くん
(前沢区・赤生津小学校6年)

Interview

——学校での役割は？
保健体育委員長をしています。運動が好きなのでこの委員会に入りました。健康づくりや「わんぱくタイム」という全校児童での遊びを企画するなどしています。
——得意なスポーツは何ですか？
野球です。スポーツ少年団の前沢ドリームスでキャッチャーをしています。打順は3番。守備より打つ方が楽しいので好きです。
——小学校の思い出は？
4年生の時に県南青少年の家でキャンプ合宿をしたことです。川

将来の夢は「プロ野球選手」

遊びが楽しかった！初めて自分で作ったカレーはおいしかったです。
——好きな食べ物は？
刺身です。
——将来の夢を教えてください。
プロ野球選手になること。そのために、スポ少では一つ一つの練習をしっかりとがんばっています。今は盗塁を刺す練習に特に力を入れています。
——夢に向かって、一言！
プロ野球選手になったら、一軍でプレーして、ホームランを打ちたいです！

青春讃歌

江刺第一中学校 男子バレーボール部

◎部員数 13人
◎顧問 池田温先生・高橋賢先生
◎コーチ 熊谷瞭太さん
◎部長 及川上総君(2年)
◎主将 石橋祥吾君(2年)
小野寺竜樹君(2年)
千葉永雅君(1年)



1年生と2年生の絆で優勝を目指す

新人戦県大会3位、1年生大会県大会1位——。江刺第一中学校男子バレーボール部は、昨秋の大会で輝かしい結果を残しました。強豪と呼ぶのに十分な成績。しかし意外にも、練習試合では敗北も少なくないとか。「このチームは大会になると豹変する」と、ゲームキャプテンの小野寺君は不敵に笑いました。



選抜大会を間近に控え、実戦練習に力が入る

「調子に乗らない、研究する、サボらない」が同部のモットー。勝っていても油断せず、相手をしっかり見て勝つためのポイントを見定め、粘り強くボールを追う——。そのストイックな精神が試合での彼らを鼓舞し、勝利を引き寄せたのです。現在も県3位という成績に見合った練習を心掛け、努力を重ねています。「1年生は小学校で県制覇したチームですが、スタメンはあくまでも2年生を中心に」と語るのは、顧問の池田先生。「2年生を勝たせたい」という1年生の思いも、大きな後押しとなっているようです。

2月には選抜大会県大会が控えています。「目標は？」の問いに、部長、主将ら4人は力強く「優勝」と声を揃えました。秋の成績に満足せず、目指すはそのさらに上。1年生と2年生が力を合わせ、頂点を狙います。



おうしゅう 羅針盤

立春とはいえ、まだまだ寒い日が続きますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。毎年恒例の市民新年交賀会を開催しました。多くの皆さんにご出席いただき、感謝します。その席上で、本市の市勢発展にご尽力されました10名の方々を、市勢功労者として表彰し、そのご労苦をねぎらわせていただきました。こ

としは受賞者の配偶者の方々もご招待し、5組のご出席をいただいたところです。どんな功績も、家族の支えがあってこそだと思います。また、各種団体の新年会にも出席させていただきましたが、いずれも盛大で勢いが感じられ、どの団体も素晴らしいスタートを切ることができたのではないのでしょうか。

1月の恒例行事として、消防出初式と、成人式にも出席

しました。出初式ですが、当日は雪が舞う厳寒のなか開催されたにも関わらず、どの隊も一糸乱れぬ分列行進でした。式典では勇壮な纏振りが披露されるなど、多くの人が見守るなか厳かに開催され、防火への思いを新たにしたところです。
皆さんは、本市の成人式が「日本一泣ける」と言われているのをご存知でしょうか。新成人に内緒で家族から預かった手紙を式当日に手渡すほか、会場にも数組の家族が登場し、サプライズで手紙を朗読するという内容が感動的で、テレビでも紹介されています。企画・運営も、新成人自らの手で行うことで、この人生の節目がより思い出に残るものになったと思います。新成人の皆さんには、家族への感謝の思いを新たに、これからの人生においてそれぞれが思い描く夢を、自分自身に負けることなく、しっかりと実現してほしいと心から願っています。

奥州市長 小沢昌記